

令和5年度 第1回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和5年11月30日（水）13時30分～15時00分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏名	所属	氏名
委員長	田岡 克介	生涯学習部市民図書館館長	伊藤 学志
委員	石橋 孝夫	生涯学習部市民図書館副館長	岩城 千恵
委員	三島 照子	生涯学習部市民図書館主査	高木 順平
委員	志賀 健司		
委員	工藤 義衛		

■欠席者：村山 耀一 委員

次第1 開会

【田岡委員長】

- ・ みなさんこんにちは。ご無沙汰しておりました。叢書第3巻の初稿が出来上がりましたのでお集まりいただきました。既にご一読いただいていると思いますので、本日はご意見をいただきたいと思います。
- ・ 図書館からは今後のスケジュールが大変タイトになっていると聞いておりますので、編集をスピードアップしていかなければと思っております。
- ・ 初稿ということで文字校正のほか、どのように編集するかといった問題、書き足りていないところ、重なっているところ、順番、編集の仕方、この項とこの項は両隣の方が良いのではないかなど、ご意見をいただければありがたいです。そのほか、気が付いたところがありましたらご遠慮なくご意見をいただければと思います。
- ・ それでは、これまでの報告等を含めて事務局から説明をお願いします。

次第2 報告（1）石狩叢書第3巻の進捗状況及び今後のスケジュールについて

【事務局（高木）】

- ・ 報告の前に本年4月、人事異動で図書館長が代わりましたので皆さんに一言ご挨拶をさせていただきます。

【事務局（伊藤館長）】

- ・ 皆さんこんにちは。この4月より図書館長になりました伊藤と申します。どうぞよろしくお願い致します。
- ・ 今年も残すところあと1か月になりました。発行者である石狩市としては、何とか叢書第3巻を第1巻、第2巻に引き続き、市民の皆さんに責任をもってお届けしたいと考えておりますの

で、皆さんにおかれましては引き続き編集業務にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

【事務局（高木）】

- ・ それでは、報告（1）石狩叢書第3巻の進捗状況及び、今後のスケジュールについて説明させていただきます。
- ・ 資料の1ページをご覧ください。これまでの状況と今後のスケジュールになっております。
- ・ 令和5年1月から3月にかけて、執筆者に原稿の作成を依頼しておりました。その後、原稿締切を9月29日としていたところ、一部、ご提出いただくのが遅れたこともあり、実際は1か月遅れの10月29日に全ての原稿が揃いました。そこから編集業者に初稿を作成いただいております。
- ・ 令和5年11月下旬から12月上旬、今まさに委員の皆さんに初校の確認作業をしていただいております。お忙しいところ大変申し訳ありませんが、確認の締切が明日までとなっておりますので、ご協力をお願いします。来週は、委員からいただいたご意見を含めまして、執筆者に校正を依頼をすることになっております。
- ・ 続きまして、12月中旬から下旬にかけて、第2校の確認作業を行います。確認作業は第2回叢書発刊編集委員会として書面で開催させていただきます。
- ・ 令和6年1月中旬に第3校を委員と執筆者の皆さんにご確認いただき、第3回叢書発刊編集委員会を開催の上、原稿確定とします。その後、1月29日に編集業者より叢書の完成データをPDFで納品していただき、令和6年3月末に印刷完了、そして発刊、プレスリリースとなります。チラシ・ポスターは図書館で制作し、PRをしたいと考えております。印刷予算につきましても今年度予算となっておりますので、3月末には発刊が出来るように進めて参りたいと思っております。タイトなスケジュールで申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。以上で報告について終わらせていただきます。

※ 議題（2）エピソードの順番について

※ 進行の都合により、次第と違う順番で議論された。

【田岡委員長】

- ・ 今日皆さんと原稿を確認させていただきます。エピソードの順番やページの起こし方、文字の校正など、ご意見をいただきたいと思っております。志賀さん、何か意見はありますか。

【志賀委員】

- ・ 個々の原稿についてじっくり読んではいませんが、順番を少し入れ替える必要があると思っております。

【事務局（高木）】

- ・ 本日はエピソードの順番をある程度確定させたいと思っております。この順番は、10月に田岡さん、三島さん、志賀さんで案として作成したものです。違和感のあるものは入替が必要だと思いますので、ご検討をお願いします。

【工藤委員】

- ・ 30番以降の順番に纏まりがないように見えます。基本的に最初は植物、生物があり、後半に同じ生物であるにもかかわらず最初に入らなかったエピソードが纏められており、意図が分かりません。大きく植物、生物、その他のような構成が良いのではないかと思います。

【石橋委員】

- ・途中で追加されたエピソードもあり、バランスが取れていないものもあるのは仕方が無いのですが、少なくとも41と42は逆にした方が良いと思います。後は、歴史にしても何にしてもバランスが取れていないので、適宜散らした方が良いと思います。

【田岡委員長】

- ・石狩の歴史や植物に関する専門的なエピソードを最初に持ってくることは出来ないでしょうか。また、本文の前に簡単な紹介があると良いと思います。自分が執筆した「随想」を4つに分けたのは、こういう囲みで入れようと思っていたからです。

【志賀委員】

- ・その方が良いと思います。四季を一つの塊に纏めるより、4カ所に分けた方が良いと思います。

【田岡委員長】

- ・随想を最後に入れると違和感があります。

【志賀委員】

- ・全体をいくつかに分ける必要性は私も考えており、元々は地形・植物・人の活動・文化という分野で分けてみました。この問題として分野と時間での分け方が混在し、特に後半に纏まりが無いように見えます。4～5つくらいのグループに分けて、第1章「植物」のような形のほうが読者にも分かりやすいと思います。目次を見た時に第1章は植物の話が並び、第2章には歴史の話などにすると分かりやすいと思います。

【田岡委員長】

- ・海浜植物保護センターに関する原稿と、何故センターをつくったのかを記載した私の原稿が離れて掲載されています。せっかく同じ海浜植物保護センターを取り上げているのに、違うページに掲載されているようなところも含めて、全体の再精査が必要でないかと思います。

【志賀委員】

- ・11番の原稿は、今のルールでいうと後半の市民活動の分野に入れた方が良いでしょうね。

【工藤委員】

- ・石狩湾新港の開発に関する原稿は自然保護と関連しているので、一つのカテゴリとして纏める方法もあるのではないのでしょうか。また、自然の植物、生物を各論として纏め、全体として自然保護というカテゴリで構成するのも良いのではないかと思います。

【志賀委員】

- ・植物や生態系などの自然の話と、人から見た環境の2つに分けた方が良いでしょうね。人が関わるのは海浜植物保護センターや石狩湾新港の開発の話であり、これらは後半に纏めたほうが良いでしょうね。

【田岡委員長】

- ・志賀さん、今、工藤さんの言ったような方向で構成案を作っていただけませんかでしょうか。

【志賀委員】

- ・はい、分かりました。

【事務局（高木）】

- ・事務局で志賀さんと調整させていただきます。

【三島委員】

- ・ 質問です。原稿の「です・ます調」、「だ・である調」は統一しなくて良いのでしょうか。

【石橋委員】

- ・ 現時点でそれを編集するのは大変でしょう。発刊が来年9月くらいまで遅れるのではないのでしょうか。

【志賀委員】

- ・ 当初は、「で・ある調」で統一することになっていたのではないかと思います。

【工藤委員】

- ・ 私も「です・ます調」で書いているので、合わないのであれば修正します。

【事務局（岩城副館長）】

- ・ 素人目線なのですが原稿を読み、とても楽しい内容であると思いました。確かに「です・ます調」と、「だ・である調」が混在していますが、執筆者の息遣いが感じられ、臨場感もあって面白いと思いました。

【志賀委員】

- ・ 私も、意外と混在している状態も良いのではないかと思います。
- ・ 理想としては、統一されている方が良いでしょうから、次回からそうしましうくらいで良い気がします。

【事務局（高木）】

- ・ 次の議題に進んでもよろしいでしょうか。

次第3 議題(1) 石狩叢書第3巻のタイトルについて

【事務局（高木）】

- ・ 次に資料2ページ、石狩叢書第3巻のタイトルについて検討していただきたいと思います。
- ・ 令和4年12月、北大の松島先生、元海浜植物保護センターの内藤さん、田岡委員長、三島さん、志賀さんで第3巻の大枠の構成を検討しました。この時、タイトルについても話し合い、「石狩海岸の自然」を仮のタイトルとして進めてきたところです。
- ・ このほかに「石狩浜のしぜん誌」、「石狩浜のよもやま話」というタイトル案も出ていました。ただ石狩浜に限ってしまうと文中では石狩浜ではない小樽市の浜も入ってきますので適当ではないと思います。「石狩海岸」と言い換えると、どれも当てはまるのではないかと思います。
- ・ これらの案以外にもタイトルは考えられると思いますので、検討していただきたいと思います。委員長よろしくお願いします。

【田岡委員長】

- ・ 少なくとも「石狩海岸の自然」では駄目ですね。

【志賀委員】

- ・ 結構人が関わる話も入っていますので、自然と言い切ると違いますよね。例えばですが、「しぜん誌」はどうでしょうか。「しぜん」が平仮名で良いかどうか検討が必要ですが、「しぜん誌」という言葉にすると人や文化のニュアンスが入りそうな気がします。そして、浜か海岸かという問題を考えると、例えば「石狩海岸のしぜん誌」が良いのではないかと思います。

【田岡委員長】

- ・ 今までのタイトルとの調和は考えなくて良いのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 1巻目が「吉岡玉吉さんの昔語り 私の体験したサケ漁」、2巻目が「田岡克介さんの鮭話彼は鮭の鱗」となっております。

【田岡委員長】

- ・ 調和はとらなくて良いです。調和にとらわれたらタイトルは作れないですね。

【三島委員】

- ・ 「石狩海岸」だけで良いのではないのでしょうか。そうしますと、色々なものが入ってきても違和感は無いと思います。

【田岡委員長】

- ・ 私は、石狩海岸でイメージすると当然、自然は出てくるのですが、次にサケ漁、漁業が出てくる感じです。自然といいますか、植物にウエイトを置いていますので、そこに「誌」が付けば、人のおいがすると思います。

【石橋委員】

- ・ 「石狩海岸の自然誌」くらいが適当なのではないのでしょうか。

【三島委員】

- ・ 自然は漢字ですか。

【工藤委員】

- ・ ひらがなにすると逆に分かりにくくなると思います。

【三島委員】

- ・ サブタイトルはいらないですか。石狩の海の自然、歴史、植物とか項目を並べて。

【石橋委員】

- ・ 本文を読めば何となく分かるのではないのでしょうか。

【三島委員】

- ・ では、「自然し」の「し」はどの漢字になりますか。

【田岡委員長】

- ・ 「し」は歴史の「史」でしょうか、雑誌の「誌」でしょうか。皆さん、どちらにしましょうか。

【志賀委員】

- ・ 歴史の「史」の「自然史」もあります。雑誌の「誌」か歴史の「史」のどちらかですが、厳密な言葉の意味は色々あると思いますが、僕らが使う歴史の自然「史」だと、どういう植物があるかとか、あるいは化石など生命の歴史の話とか、そういう生物、地学的面がとても強くなる印象があります。それよりは雑誌の「誌」の方が、少し人っぽい雰囲気が出てくるかと思います。

【田岡委員長】

- ・ それではタイトルは、「石狩海岸の自然誌」。雑誌の「誌」の漢字を使います。

【事務局（高木）】

- ・ はい、ありがとうございます。

次第3 議題(3) 執筆者紹介ページについて

【事務局（高木）】

- ・ 続きまして資料の3ページ、執筆者紹介ページにつきましてご検討をお願いいたします。
- ・ 資料に掲載している執筆者紹介ページは第2巻の著者略歴、田岡さんを例として記載しています。文字数のボリュームは、一人当たりこのくらいが良いのではないかと考えております。具体的な文字数は1行146文字、5行分が1つのフォーマットと考えています。また、第2巻を確認したところ、年数の表記が和暦（西暦）年で統一されていたので、紹介ページについても同じように統一するべきと考えています。
- ・ 執筆者数は13名です。並び順も色々考え方があるかと思いますので、合わせてご検討をいただきたいと思えます。色々な本を見ると、メインとなる著者が最初に来る、あいうえお順、原稿の掲載順などがありましたが、私より皆さんの方がお詳しいと思えますので、ご検討ください。先ほど申し上げましたとおり、検討内容は執筆者ページのボリューム・フォーマット、執筆者紹介の並び順、この2点になります。

【工藤委員】

- ・ 例として記載されているボリュームは多いのではないのでしょうか。
- ・ 通常、執筆者紹介は必須項目だけ決めて依頼します。例えば生年、出身地、最終学歴、職歴、プラスアルファなど、あとは何か言いたいことがあれば書いてもらいます。文字数は、もっと少なくて良い気がします。

【志賀委員】

- ・ 職歴の書き具合にもよると思いますが、そもそも執筆者は13人のため、このボリュームだと見開きに収まらないのではないのでしょうか。

【工藤委員】

- ・ 一人につき2行くらいのボリュームで、尚且つ先ほど述べた項目で充分かと思えます。

【志賀委員】

- ・ 見開きで収まることを考えると、例として記載されている田岡さんの半分か3分の2くらい、量的にはそんなところかと思えますよね。あとは最近、生年を入れるかどうかの問題がありますよね。

【工藤委員】

- ・ 生まれた年を入れると年齢が分かります。年齢というのはある程度、人の現在の社会的な地位が分かる一つの目安になるのではないかと思います。

【石橋委員】

- ・ それぞれの趣味もありますので、それぞれ書いてもらえば良いのではないのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 特に文字数は指示しなくても、項目だけ依頼すればよろしいでしょうか。

【三島委員】

- ・ 文字数の制限が無ければ、いくらでも書く方がいるのではないのでしょうか。

【工藤委員】

- ・ シンプルに書く人はシンプルに書くだろし、書きたい人は沢山書くでしょう。

【志賀委員】

- ・ 人によって好きなように書かせたら、全体としてばらつきが出るのではないのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ それでは、必須項目を生年、出身地、最終学歴、職歴とし、大体120文字くらいを目安に書いてもらうということではよろしいでしょうか。では、その条件で来週、執筆者の初校確認の際、合わせて依頼します。
- ・ 並び順については、いかがでしょうか。

【田岡委員長】

- ・ 松島先生を一番始めにして欲しいです。松島さん、内藤さん、志賀さんという順番ではないでしょうか。主に執筆した人の順番です。

【志賀委員】

- ・ 編者は当委員会ですし、メインの執筆者という分けもしていないので、誰がメインなのかという点も難しいです。あいうえお順かエピソードの掲載順が良いのではないのでしょうか。

【三島委員】

- ・ エピソードの掲載順がいいですね。

【志賀委員】

- ・ そのほうが読者も分かりやすいかなと思います。

【事務局（高木）】

- ・ それでは、エピソードの掲載順ということですね。

【志賀委員】

- ・ 今の話と関連するのですが、現段階ではエピソードごとに肩書とフルネームが入っており、少しくどいかなと思うんです。
- ・ 執筆者紹介のところに肩書を全部移行し、各エピソードのタイトルの次は名前だけでも良いのではないのでしょうか。あるいは各エピソードの最後に記名でも良いと思うんです。

【事務局（高木）】

- ・ 誰が書いたエピソードであるかが最初に分かったほうが、内容がずっと頭に入ってくると思います。

【志賀委員】

- ・ それは分かります。

【三島委員】

- ・ 普通、興味があったら自分で後ろの執筆者紹介を見ませんか。

【石橋委員】

- ・ 名前だけにした方が良いと思います。

【志賀委員】

- ・ 確かにそれが良いと思います。
- ・ それと、9番のエピソードの執筆者の肩書は長いのではないのでしょうか。

【工藤委員】

- ・ タイトルの後にすぐ名前が来るのはうるさいと言いますか、個人的には一番後ろのほうに、括弧付きでちょっと名前が載るくらいにして欲しいです。

【事務局（高木）】

- ・ 執筆者紹介の順番はエピソードの掲載順で確定ということでしょうか。
- ・ 志賀さんからのご提案については、名前だけを冒頭にということなので、今の原稿の肩書だけを消すということでしょうか。

【事務局（岩城副館長）】

- ・ あるいは、肩書を消して名前を各エピソードの後ろに記載ということでしょうか。

【田岡委員長】

- ・ 好みの問題もありますが、後ろにしましょう。

【事務局（高木）】

- ・ はい、ありがとうございます。名前は各エピソードの後ろということで調整をさせていただきます。

次第3 議題(4) 印刷部数について

【事務局（高木）】

- ・ 最後の議題になります。資料の4ページ、第3巻の印刷部数について検討していただきたいと思えます。
- ・ 今までの状況を確認させていただきますと第1巻は600部、第2巻は700部印刷しております。石狩叢書の販売・配布部数の状況につきまして、11月30日時点の概数をお手元の資料に纏めております。
- ・ 第1巻が発刊されてから2年余りとなりますが、600部のうち在庫が257部となっています。総販売数が122部で、配布数268部。配布数とは無料で配布しているもので、道内の図書館や自治体、発刊協力者に配布しているものになります。
- ・ 第2巻は700部印刷し、現在134部の在庫で総販売数は結構多い状況です。発刊されてから大体1年くらいですが296部が売れており、配布は270部です。2巻の販売数である296部は、ほぼ令和4年度に売れた数です。
- ・ なお、令和5年度の販売数は第1巻が0部、第2巻は7部という状況です。
- ・ 第3巻については、執筆者が多いため、関係者が購入する可能性があること、執筆者が所属している団体などに配布することを考えると、印刷部数を増やす必要があるのではないかと思います。第2巻は、印刷部数700部に対し現在の在庫数から考えますと、田岡さんのネームバリューが影響したのではないかと考えています。今回は執筆者が多く、幅広に注目を浴びる可能性があるということを考えますと、第3巻についても700部を一つの基軸として検討した方が良いかと思えます。印刷予算は700部、あるいは800部でも印刷可能です。
- ・ 印刷部数のご検討をお願いいたします。

【田岡委員長】

- ・ 執筆者に無料で渡す冊数も必要だと思います。

【三島委員】

- ・ 普通は本を作った際、執筆者は無料で何冊いただけるのでしょうか。

【工藤委員】

- ・ 色々なパターンがありますが、3部の時もあれば、5部の時もありますね。

【志賀委員】

- ・ 2～3冊で良いような気はしますが。

【三島委員】

- ・ 3冊で良いと思います。

【志賀委員】

- ・ どうしても欲しかったら買うこともできますしね。

【三島委員】

- ・ では執筆者に3冊お渡しし、700部を印刷ということですか。ただ、原稿を読むととても面白い内容なので、もっと売れるのではないかと思います。

【田岡委員長】

- ・ 最終的に在庫冊数は何冊あれば良いのでしょうか。図書館には1冊あれば良いのか、それとも10冊くらいは必要なのか。

【三島委員】

- ・ 予算的には800部までは印刷できるんですね。

【志賀委員】

- ・ 1,000部刷れる予算があるとして、700部しか刷らないということに意味があるのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 在庫をたくさん抱えるよりは、適正な数を印刷した方が良いと考えています。

【田岡委員長】

- ・ 正直言いますと、未だに叢書はどこで販売されているのか分からないと言われます。皆さんの目に付かないようです。パンフレットや広告で宣伝した方が良いのではないのでしょうか。

【三島委員】

- ・ 書店に置くのは大変なんですか。

【工藤委員】

- ・ 結構大変です。無料で置いてくれません。本屋さんの儲けがあるので市は定価で収入を得ることが出来ませんので、なかなか難しいです。

【田岡委員長】

- ・ 宣伝が重要ですね。印刷は予算の範囲で、800部印刷すれば良いと思います。

【事務局（高木）】

- ・ 販売のPRについては、図書館として出来る範囲でなんとかやっていきたいと思っています。

【工藤委員】

- ・ 最終的に原稿データが完成した段階で再度見積りを取り、我々に相談することになりますよね。それなら現段階での見込みとして、800部で良いと思います。

【志賀委員】

- ・ 私は、売るつもりがあればそこそこ売れるんじゃないかと思います。今は全然宣伝をしているように見えませんから。
- ・ 無責任なことを言うと、刷れるだけ刷れば良いのではないかというのが僕の意見です。もし可能であれば、1,000部くらい刷っても良いと思います

【事務局（岩城副館長）】

- ・ 現段階では800冊を基軸とし、予算として可能であれば増やすことも検討するということでのよろしいでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ それでは、本日の議題につきまして終了させていただきます。

次第4 その他

【三島委員】

- ・ 掲載順についてですが「名無し沼」の前に、名無し沼に触れているエピソードが掲載されています。順番を入れ替えたほうが分かりやすいと思いました。

【志賀委員】

- ・ それは16番エピソードの原稿ですよね。その通りなんです。これは順番を入れ替える方向で僕は考えています。

【三島委員】

- ・ 分かりました。

【事務局（高木）】

- ・ ほかにご意見はありませんか。
- ・ 本日は長時間にわたり、ありがとうございました。
- ・ 最後に、事務局からスケジュール確認をさせていただきます。
- ・ 資料の1ページをご覧ください。第2校の確認作業は12月中旬から12月下旬を予定しております。
- ・ この下の欄に令和5年度第2回叢書発刊編集委員会実施と記載していますが、第2校の校正は書面開催といたします。
- ・ また、初稿の校正は明日までとなっておりますので、よろしくお願いたします。
- ・ 次に集まるのは、令和6年1月中旬に開催予定の第3回委員会です。また近くなりましたら日程調整をさせていただきます
- ・ それでは本日これで終了ということでのよろしいでしょうか。

【田岡委員長】

- ・ はい、どうもありがとうございました。

令和 5 年 12 月 25 日

会議録署名委員

委員長

田岡新